

感染対策を担う看護師として

感染対策チーム 看護師 山之内 美幸

2020年はCOVID-19（新型コロナウイルス）の年と言っても過言ではないと思います。細菌やウイルスは沢山あり、各々適した感染対策があります。今回騒がれている新型コロナウイルスは、基本的には、飛沫感染対策と接触感染対策ということになります。ざっくり言うと、「飛沫感染対策」とは手指消毒をする。マスクをする。

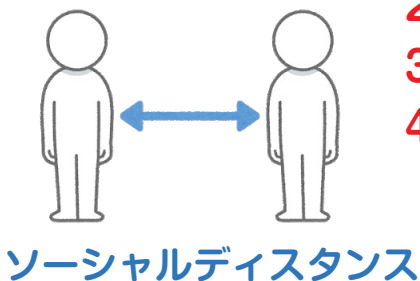
「接触感染対策」とは手指消毒する。使い捨て手袋、エプロンをする。ということになります。

ここで気付かれた方もいると思いますが、どちらにも手指消毒が入っています。感染対策で一番重要なのは手指消毒なのです。世の中には、沢山のウイルスや細菌があります。生活する中で、手は色々なところに触れます。そういう意味で、手にはウイルスや細菌がついています。それらは手から手に移っていくことが多いです。ですから手指消毒が重要になるのです。医療従事者は、目に見える汚れがある場合は、石鹸と流水で手洗いをしますが、それ以外は速乾性アルコール製剤で手指消毒をします。新型コロナウイルスの流行により速乾性アルコール製剤も市民権を得てきたと思います。



新型コロナウイルスの感染対策は 次の通りです。

1. 密集、密接、密室を避ける
2. 安全な距離を保つ
3. こまめに手を洗う
4. 室内換気と咳エチケット



ソーシャルディスタンス



いまから 100 年前の日本で、同じようなことが起きていました。

スペイン風邪（1918～1920年）です。約2年間新型ウイルスにより、当時の世界人口の3割にあたる5億人もが感染し、2000万～4500万人（日本国内45万人）が死亡したと言われています。

このときも日本の政府は、同じよう対策をとっています。

1. 病人に近寄らない。
2. 沢山人の集まっているところに行かない。
3. マスクをつける。
4. 病人の部屋は別にし、看護人以外は部屋に入らない。



学校も全面休校となっていました。これらを知り、100年前も同じような苦難を乗り越えたのだと思いました。ウイルスや細菌は、生き残るため形を変えながらしぶとく生き残るものですから、それがいなくなることはないのです。私たちは対策を講じながら、生きていかなければならないとつくづく感じています。